（別紙4）　　平成　29　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4393000072		
法人名	医療法人　新清会		
事業所名	グループホーム　千花		
所在地	熊本県葦北郡芦北町大字芦北2592－1		
自己評価作成日	平成29年10月15日	評価結果市町村受理日	平成29年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13－12－205
訪問調査日	平成29年11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

5年目となる千花は、少しずつ地域に根付いてきた様に思います。周辺には公共機関や商業施設が徒歩で行ける範囲にあります。秋の夕焼けが大変綺麗にみえます。8月の町内花火大会もホームより綺麗にみえます。高速道路の開通以来3号線の交通量も減少し大変静かな環境です。室内は完全バリアフリー、手摺りが設置されており、移動時の動線の確保がされています。裏庭には畑があり、今年はチューリップを一面に植え付けました。来年の春には沢山の花が見られると思い皆で楽しみにしています。お天気の良い日は近くまで散歩、月に1度はドライブ、カラオケなどをしています。町内の行事にも出かけます。食事は季節の新鮮な食材を毎日買い出しに行き、職員が毎日メニューを考え、手作りで提供しています。職員は30代～60代で個々の意見を出し合い日々支援させて頂いています。千花の理念の基、思いに気付き寄り添い笑顔の花を咲かせ穏やかな日々を送って頂ける様取り組んでいます

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

開設して5年目、下肢筋力の低下は見られるものの入居当初よりあまり大きな変動も無い入居者を、固定観念の無い職員の存在が落ち着いた生活に反映させ、「歌は歌わじゃ！」と歌いだす姿も職員の工夫（歌詞カード）によるものが大きく、お互いに評価し合い褒め合いながらの賑やかな生活ぶりである。職員は寄り添いと傾聴、自然体で笑顔で返し…を共通認識として、人生の最終章を支援したいとの思いも厚く、毎月の運営会議や業務検討会等管理者を中心とし意思疎通の良い関係が築かれ、同法人での各委員会活動等を通し知識や技術の向上にまい進するモチベーションに繋がり、専門職としての的確な判断や観察力を生かしながら入居者個々の思いに寄り添っている。母体法人や家族の協力も得ながら、花を咲かせる為笑顔と生き生きとした雰囲気作りにあると理念を具体化して取り組み、民家は少ない中でも近隣住民との接点を見出し、一時避難所として提供する体制としている等地域の中のホームとして浸透してきている。今後も馴染みの入居者と職員との笑顔での生活が継続されるであろうと大いに期待できるホームである。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

事業所名：グループホーム千花

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	タイムカードの横に貼り理念を出勤退社時声に出して読んでいる。又千花での理念も作り全職員で共有し実践に繋げるよう努めている。	法人及びホームの理念を職員各々が読み上げ、まず鏡を見てケアに入ることで、意識付けとしている。職員体制に変動もなく、固定観念の無い職員のケア意識及び存在が理念の実践として輝いて過ごす入居者を支えている。花を咲かせるには…　や、人生の最後・生きるとは…等理念を想起させながら具体的に話し合い、職員個々が表情を意識し笑顔を提供することなどを共通認識としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者職員は近隣の方への挨拶には常時心掛けている。ほぼ毎日近所を散歩したり、近くのお店へ買い物に出掛けている。避難訓練など手伝いを呼びかけている。6月の1日一汗運動にも参加するようにしている。中学生の職場体験も実施。	商業地の中という立地ではあるが、自治会からの声かけ等もあり、近隣住民との挨拶をかかさず、日々の散歩や買い物、自主防災組織や1日一汗運動等地域の一員として活動している。また、ホームの避難訓練に区長や隣の住民等の参加を得ており、相互交流に取り組み、災害時の一時避難所として提供することとしている。入居者の生活圏であった地域へのドライブ（月一回）も、地域住民との交流促進として生かされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人主催の行事に参加し地域の方々と交流を深めている。町主催の七夕祭りには七夕飾りを出品し見学にでかけている。今年は中止となった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者様の近況報告や他委員からの質問意見要望をきき、サービス向上に繋げています。地域の行事なども事前に誘って頂き参加する様にしている。ヒヤリハット、事故報告によりホーム内での状況が発信できている。学校関係者への呼びかけは検討中。	定期的に開催する運営推進会議は、行政・区長・消防署長・民生委員・家族等をメンバーとしてホームからの各報告や参加者からの情報提供のもと、質疑応答が行われている。側溝の水はけ等ハード問題を行政に依頼できる機会やヒヤリハット・事故も開示する等双方向性のある会議であり、透明性のある運営体制であることも議事録により確認できた。消防署や区長もホームを理解し、意見や提案も多く出されており、雑談の中からも意義を見出しケアサービスに反映させている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	芦北町住民生活課主催の認知症初期集中支援チーム等における協議に出席しサービス向上に活かしている。他ホームや包括、ケアマネジャーなどと意見交換や現状を聞くことでケアの向上にいかしている。	行政や地域包括支援センターから空き状況や見学の依頼を受けたり、行政主催の認知症初期支援チームの一員として参画している。運営推進会議での情報の他、インフルエンザ対策やノロウイルス等時期的な情報を得たり、認定調査に立会い、情報交換を行う等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を法人の中で実施し職員全員が正しく理解し実践に取り組んでいる。玄関居室等の施錠についても身体拘束であると認識し、利用者様の状態を把握し見守りを工夫しケアに取り組んでいる。スピーチロックに関しても現在、改善策アセス実施に取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会の中での勉強会や事例検討の他、転倒・転落アセスメントスコアチェックシートの記入方法などの検討や他部署からの意見をもらいながら、全職員が情報を共有している。また、職員の言葉使いについては常にお互いが注意喚起している。ベッド柵（３点）を家族の同意により使用したケースもあるが、経過観察し全員でカンファレンスを行っている。幹線道路沿いのホームであり、外出の気配を察知し一緒に出かける等個別支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止も職員全員注意し声かけしながら防止に努めている。今後も職員全員が意識を持って取り組んでいきます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については学ぶ機会を設けたいと思う。現在対象者はいないが今後学ぶ必要はあると思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	約款書の説明利用料金、重度化や看取りについて、医療連携体制、起こりうるリスクなど詳しく説明している。報酬加算料金改定時には文書を発行し個々に詳しく説明している。経済的不安に対しては個別にて対応相談にのっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様との毎日の会話のなかで意見要望不満等聴くようにしている。内容を必ず職員間で話し合い運営に反映させている。家族の面会時には必ず意見や要望を聴くようにしている。家族要望ノートにて職員間で共有し運営に反映させている。	入居者には日々の生活の中で要望等を引き出している。家族には訪問時等に現状説明と共に要望等を尋ねたり、入居者の思いを察知し家族に外出をお願いしている。苦情の申し出は無いが、相談や依頼された事案は記録に残し検討している。家族会での交流や、運営推進会議、外部評価結果等全てを開示し、千花便りにより情報を発信している。	家族との信頼関係が築かれたホームであり、敬老会では家族も参加され盛会に行われており、家族も協力的である。今後も、家族からの言葉、良し悪しに関わらず記録に残すことで、職員のモチベーションとして生かしていただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員同士で業務検討会を行い意見を出し合い聴くようにしている。又休憩時などに気付いた点は都度話し合えるようにしている。運営会議の席で理事長事務長、訪看主任を交え意見や提案を出し合い運営に反映させている。	業務改善会議での意見交換、運営会議には理事長や訪問看護職員等を交えながら意見交換を行っている。管理者を中心として意思疎通の良い関係が築かれており、歌詞カードを大きくしたことで歌うことに繋がる等様々な工夫がケアサービスとして生かされている他、職員体制等理事長へ上申している。法人全体での委員会活動も活発であり、改善意欲の高いホームである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常勤6名パート1名にて個々の事情を踏まえ、継続して働くことが出来ている。福利厚生の確立職員の資格取得に向けた支援を行い取得後は職場内で活かせる環境作りに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での勉強会や町主催の研修会、実践者研修等全職員が参加できるよう体制を作っている。。資格取得に向けてお互い声掛けし頑張っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会熊本県支部総会出席、情報交換に努めている。水俣芦北ブロック会に参加交流に努めている。同法人同志の交流など通じ質の向上に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サマリーや情報提供書にて事前に本人の思いや不安を全職員が共有し傾聴するようにしている。要望等にも耳を傾けコミュニケーションをとりながら関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と世間話しなど交え、ゆっくりと話を聞くようにしている。特に不安なこと、要望等は時間をかけ関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	全職員間で話し合い状況確認し、必要としている支援の提案をし他のサービス利用にも繋げていくよう努めている。相談者との充分な話し合いにも努め、代表者にも相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の個々の能力に応じ家事や畑仕事等を一緒に行っている。又出来ることはして頂き出来ない事を支援させてもらっている。常に笑顔で接するよう心掛け穏やかに生活して頂ける様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など本人の状態を報告相談している。疎遠になりつつある時は電話などで連絡、相談報告をしている。利用者様や家族との関わりを多く持ち良い関係を築けるよう努めている。本人のお誕生会や敬老会は家族にも参加の声かけもしている。又年に1回家族会を開催し多くの参加を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方など気軽に面会に来て頂ける雰囲気作りに努めている。馴染みの場所などに度々ドライブに出掛けている。古里訪問は2名の利用者様宅を訪問し、近所の方との交流をすることが出来た。今後も続けていきたい。	入居者の中にはレベル低下も見られ、これまで出来ていたことが出来ない現状にはあるが、親戚への外出を兼ねて美容院へ出かける入居者や故郷訪問として生家まで出かけ、入居者から聞こえてくる地名をリサーチし卒業されたであろう小・中学校の見学等を支援している。また、家族との外出（墓参や外食）、遠方の家族の帰省に合わせ自宅での外泊等家族の協力も得て、これまでの関係性が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士出来ないことをお互い手伝われている場面を職員が見守っている。時々気分の変化にむらがある為、全職員が個々の状態を把握しながら共に楽しく生活できる様支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護サマリーや情報提供書等にて詳しく伝えるようにしている。その後の経過を見守り、必要に応じ相談や支援に努めることを本人家族に伝えるようにしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員が本人に聞いたり日常の会話の中から本人の思いや意向の把握に努めている。その思いを職員間で共有し話し合いケアに活かしてる。時には居室でゆっくり会話することもある。	職員は日々の会話や寄り添う中で希望などを聞き取りし、「○○へ行きたい」等に応じたり、口には出されなくても外を見て過ごされると家族のことを思っておられるのではないかと推察し、家族に外出をお願いする等気づきを持ってケアに当たっている。疾病により発語困難な状況に、職員の優しい言葉がけが発語を引き出し、ジャスチャー等駆使しながら思い等を把握し、本人本位になるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から話しを聞いたり前施設などから介護サマリーや情報提供書等などにて経過の把握に努めている。暮らしの情報シートなども利用しているプライバシー保護にも充分努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェックにて心身の状態把握に努めている。本人の有する力を職員が気づきチームで把握共有し家事など個々のできる力に応じ手伝って頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に要望を聞きカンファレンスを開催し介護計画をたてている。各担当にアセスメントを記入してもらい意見を反映しプラン作成をしている。現状を把握しながら、必ず見直すようにしている。	入居者を見て、必要性を見極め、職員との話し合によりプランを作成してる。毎月のケアカンファレンスにより実施状況や効果を判断し、半年毎に見直し変更があれば再作成している。理事長や訪問看護職員等も会議に参加されており、医療面からのアドバイスも生かされたプランである。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子ケアの実践気づきなど個別に介護記録に記入し、職員間で情報共有しながら気づきや工夫を話し合いケアーの実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じ柔軟に対応している。母体が医院である為医療との連携にて受診入院、病気の早期発見に努め、支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が安心して暮らして行ける様運営推進会議には区長、民政委員消防署員参加してもらい意見交換している。年2回の避難訓練には消防署Qネット、近隣の方などに参加してもらっている。9月より新清会理事の参加も実施した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の医院がかかりつけ医である。利用者様の状態は常に医師に報告又は訪看に相談している。又、状況に応じて専門医の受診も支援している。	希望するかかりつけ医を支援することを説明しているが、緊急時対応などから全員が母体医院に変更されホームで定期受診を支援している。職員は日常の中で気になることがあれば、早めに医師へ連絡し、受診や支持を仰いでおり、家族の安心に繋がっている。専門医の受診は家族と職員も同行し、状況を共有している。また、訪問看護により健康管理とアクティビティによる健康支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日健康チェックを行い、異常の早期発見に努めている。週1回の訪看来荘時状態報告し、連携、相談している。異常に気付いたら母体の医院にすぐに連絡するなど健康管理や医療支援に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体がかかりつけ医であり、入院時には情報提供しケアについて相談している。病院関係者と利用者様の状態なども情報交換している。入退院時には家族への状態報告や相談を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に必ず家族に意見を尋ねている。状態に変化が生じた場合にはかかりつけ医と意向確認をし対応している。又、入院が必要な場合は職員間で話し合い家族や母体のかかりつけ医、訪看などと連携し支援している。	入居時に重度化や終末期支援に関して、ホームの方針やできることを伝えながら、その時点での家族の意見や意向を確認している。そのような状態になった際、あらためて医師と共に、意向を確認している。家族の中には面会時に、最期までホームで過ごして欲しい旨を話された家族もおられるが、最終的に医療支援が必要になれば、母体医院での対応を望まれることが殆どである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は研修に参加している。ミィーティング時に対応について不明な点など話し合いをしている。緊急時対応マニュアルを作成し見える場所に貼り実践に活かしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署近隣の方にも参加してもらい避難訓練している。。地域の災害対策連絡会議も声かけお願いし、法人での災害対策委員会にも、協力を得ることができる。情報収集に努め法人理事長に相談早めの対応を心掛けている。29年度より2ヶ月に1度防災の日を設け自主避難の練習、周辺のチェックを行っている	年2回、消防署や近隣者の参加協力を得た、避難訓練を実施している。消防署からは運営推進会議のメンバーとして、火災・自然災害、防犯など様々な点から、伝達やアドバイスが行われている。今年度より二か月ごとに防災の日を設け、自主避難の訓練やホーム周辺の安全チェックを行っており、夏場はハチの確認など季節に応じ実施している。また、防災食を実際摂ってみながら、見直しが行われている。	消防署の存在はホームにとって心強いものであり、今後も指導やアドバイスを活かし、災害を含めた安全管理に努めていただきたい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が利用者様1人々の事を充分理解し言葉かけや対応をしている。居室に入る際は必ずノックをし訪室している。入所時ホーム発行の新聞に掲載してよいか否かお尋ねしている。又業務検討会にて全職員が必ず振り返り注意し合っている。	職員は一緒にゆったりと過ごす時間を持ちながら、一人ひとりが望まれる生活を知ることで、誇りやプライバシーに配慮した支援に繋げている。呼称は家族や本人にも確認しながら、名字や下の名にさん付けで対応している。守秘義務については入職時や研修会の中で周知徹底され、家族へも個人情報の使用について了承を得ている。職員は発した一言や対応が失礼にならぬよう、自身を振り返るためにも、鏡を見て笑顔を確認し、入居者に接している。	個々の排泄用品は、ケースに入れて居室で管理するなどプライバシーに配慮した取り組みが確認された。入室の際は個人の部屋として、在室の有無に関わらず、ノックの徹底が必要と思われる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話を通じ思いや希望が話しやすいような環境に努めている。食事中など顔の表情にて好き嫌いを把握している。言葉にて意思表示できられない利用者様の排泄など表情や体の動きをキャッチし支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様1人々のペースに合わせ本人の意向を尋ねながら支援している。散歩も1人々の状態に合わせ職員が個々に対応し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に相談や協力を得ながら、馴染みの理美容院の利用やホーム内にて本人の意向に沿って散髪支援している。近くの店へ利用者様と一緒に出掛けショッピングなどの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備を手伝ってもらったり1人々の能力に応じ配膳下膳をして頂いている。出来ない利用者様の配膳下膳は出来る方が手伝っている。食事形態も個々の状態に応じ提供している。	献立は旬を活かし、入居者の希望を聞きながら作成し、喜んでもらえる食事支援を提供している。調理は専任者や職員が中心に行っているが、入居者も物産館や地元商店での食材購入や下準備、下膳など役割をもって取り組んでいる。包丁の使い勝手など主婦の経験からくる意見を伝えながら、里芋の皮むきに励まれる入居者の姿が印象的であった。職員も見守りや介助をしながら同じものを摂っており、弾む会話が更に楽しい時間となっていた。食後もコーヒータイムをされる方やお二人で今日の予定や、ホーム生活を語られる光景も楽しい食事から継続されているようである。	ホームは個々の食事接収状況についても家族と共有しており、食が進まない方に家族から好みのおやつが届けられ、代替え食ともなっていた。今後も入居者や職員にも力の源となる食事支援を継続いただきたい。また、椅子については、入居者の身体状況に応じた高さとなるよう、職員の工夫に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様1人々の好みや習慣を全職員が把握している。月に1度体重測定をし増減の確認をしている。必要な食事水分が摂取できているか把握し支援している。場合により、医院の栄養士などに相談をしバランスのとれた食事の支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員全員が口腔ケアの重要性を理解している。利用者様1人々に応じた口腔ケアの支援をしている。夕食後義歯は消毒を毎日支援している。口腔ケアが適切に支援できているかカンファレンスにて全職員で話し合い清潔保持に努めている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。利用者様の状態に応じ可能な限りトイレでの排泄や排泄の自立の支援を行っている。個々の状況により都度検討しており現在オムツ使用者はおられない。	職員は把握した排泄パターンにより、日中はトイレでの排泄を支援している。日中数十回トイレへ行かれる方もあるが、職員はその都度見守りや誘導に応じている。身体状況によっては2名で誘導し、座ってもらうことで感覚を忘れず、トイレでの排泄が継続できるようにしている。夜間もトイレを使われる方や、パット交換など安全面にも配慮しながら個別支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを把握し飲食物に繊維質の多い物を提供したり水分摂取の工夫又、毎日1回ヨーグルト提供、結果自然排便に繋がった方もいる。日光浴や毎日の運動散歩などを通じ自然排便を促す工夫をしている。又Drや家族に相談し場合によっては緩下剤などの服用の支援もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の状態や意向に沿って支援している。羞恥心や負担感等を全職員が理解し都度声かけしながら、ゆっくりと入浴ができるよう支援している。冬場は入浴剤使用で温泉気分、湯冷め防止に努めている。	入浴は個々の身体状況や意向にそって支援している。月曜～土曜まで準備をし、週3～4回入られているが、夏場は回数が増える方もおられる。失禁時や皮膚疾患がある場合は、小まめな入浴により清潔保持に努めている。冬場は入浴剤で気分を高めており、乾燥肌になりやすい方には、保湿剤を使用しながら痒みや不快にならないようにしている。浴室や脱衣場は掃除を徹底し、収納棚にはプライバシーに配慮したカーテンの使用も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人々の要望や状況に応じて対応している。日中は活動や日光浴などを促し安眠できるような支援をしている。ストレスの状態等を申し送りにて全職員が把握し1日穏やかに過ごして頂ける様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋を介護記録に閉じ、全職員が把握出来るようにしている。状態の経過や変化を訪看に相談したりかかりつけ医に報告している。1人々の薬箱にて飲み忘れや誤薬の防止に努めている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事全般において出来ることは手伝ってもらっている。本人のペースで生活できる様支援している。季節ごとの行事や誕生会など全員参加で行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	午前中医院への電気治療へ出かけ行かれない利用者様は散歩や近くの店への買い物などの支援をしている。家族の協力にて墓参りや友人宅自宅に外出されている。月に1度は必ず全員でドライブに出掛けている。本人の意向により外出の支援もおこなっている。	地元神社（佐敷・女島）への初詣や、河津桜見学、花見など地域資源を活用しながらドライブに出かけている。ホーム周辺の散歩や買い物など日常的な外出支援も希望を聞きながら支援している。平日は通院などが入っているため、日曜日は入浴を中止して、散歩やレクレーションでゆっくり関わる時間としている。また、家族にも関係性が途切れないよう、外出への協力を依頼しており、墓参や自宅への帰省、理美容支援など本人の笑顔を引き出す時間となっている。	ドライブからホームに帰ってくると、すぐに出かけたことを忘れてしまわれるが、一瞬を楽しんでいただけるよう努めたいとしている。また、寒い時期は日光浴の日を月の予定に数回設け、庭先でのお茶など日の当たる場所を選んで楽しんでいる。今後も職員のアイディアや工夫によって、入居者の笑顔を引き出す外出の時間を継続いただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や家族の同意の元に所持されている方もおられ、買い物などの支援をしている。預り金の説明は入所時に必ず行い本人と家族と相談合意を得て管理している。面会時には預り金ノートにて使徒と残金を確認して頂きサインをもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望にていつでも電話を使用出来る様支援している。手紙やはがきを書く方もおられ、プライバシーに配慮しながら支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や植物を飾ったり行事ごとの写真など利用者様と一緒に考え意見を尋ねながら飾りつけをしている。室温も温度計を確認し調節している。居心地良く過ごして頂ける様全職員にて意見を出し合い工夫している。	ホーム内の造りは決して広くはないが、奥行きがあり、職員の目配りのしやすさや、入居者も歩行訓練が一直線上で行える空間である。玄関先には入居者と一緒にプランターに植えた花苗や、ホーム内にも大きめのカレンダーを数か所に掲示したり、飾り物など季節を感じることができる。また、写真は直近の物を掲示することで、家族の関心も高め、より身近な話題となっている。共用空間は入居者に応じて温湿度を管理し、洗面台の水滴や床のごみなど衛生面にも配慮しながらその都度確認している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関と後方の非常口辺りに椅子を準備し1人で外の景色を眺めたりゆっくりできる空間を提供出来る様工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族と相談し馴染みの物を持って来てもらっている。居室には本人と一緒に写真や手作りの物を飾ったりしている。装飾することを拒否される利用者様もおられる為相談しながら行っている	ホームではベッドやタンス・寝具を備えており、入居にあたっては、本人が安心されるもの、馴染みの物など持ち込んで欲しいことを伝えている。物がないほうが落ち着かれる方には、その都度状況を見て環境作りを行っている。カラオケセットやテレビの持ち込み、家族写真の掲示など、これまでの趣味や特技、楽しみごとなどが伝わってくる。衣替えはホームでも取り組んでいるが、家族が行われると、本人の安心に繋がることを伝えており、面会を兼ねて衣類の整理をされるところもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力歩行される方が安心して動ける様ソファーや椅子を手摺りの代替になる様工夫し設置している居室も一人々の身体機能や状態にあわせ家族と相談し決定している		